

令和4年度 第3回スマートウェルネスあさひかわプラン懇談会 会議録

○開催日時	令和4年11月30日（水）午後6時30分から午後8時30分まで
○開催場所	旭川市第二庁舎3階 問診指導室（旭川市7条通10丁目）
○出席者	参加者（6名） ・今井悟，神田典行，小宮谷真奈美，山上優人，山田直行，吉田貴彦 （50音順・敬称略） 事務局（6名） ・保健所 向井地域保健担当部長 ・健康推進課 渡辺次長，村上補佐，秋場主査，熊野 ・保健総務課 伊藤補佐
○傍聴者数等	0人（公開）
○会議資料 ・次第 ・資料	第3回懇談会資料
○会議内容 1 開会 2 議題 （1），（2） 質疑応答 [A氏] [事務局] [進行役] [事務局] [A氏] [事務局] [B氏] [C氏] [B氏] [進行役] [事務局] [C氏] [事務局] 意見交換 [A氏] [進行役] [B氏]	議題（1）「第2回懇談会のまとめ」、議題（2）「ワーキンググループ第1回～第3回の報告」について、資料に基づき事務局から説明 ・骨子イメージの取組例について、「安全で安心な健康増進環境の整備」の中で、自転車走行環境の整備が唐突に出てくると感じた。歩くことを進めて行くのであれば、歩行環境の整備となるのではないかと。 ・ワーキンググループの中で、活動を増やすことは、歩くことだけではなく、自転車の活用についても意見があった。市としても自転車走行環境の整備に取り組んでいる状況にあるため、既に実施しており、環境の整備に関連する取組として例示した。今後、市役所全体の事業について調査を行う中で、歩行環境に係る取組について把握ができれば記載していきたい。 ・自転車以外についても、できることを今後取り入れていくということで良いか。 ・そのとおり。 ・受動喫煙防止対策は既に浸透していると思うが、改めて入れる必要があるのか。 ・北海道は喫煙率が高い状況にあり、健康日本21旭川計画に係る旭川市のアンケート調査においても、過去の調査に比べて低下しているものの、特に女性の喫煙率が高い。また、屋外の喫煙における受動喫煙防止の配慮について市民からの意見が多い状況にあり、啓発は必要であると感じている。 ・施設においても、喫煙所の設置場所について意見があり、今年になって入口近くから場所を移動した。受動喫煙の防止について考えていくことは重要だと思う。 ・ひとの健幸づくりの「ライフステージに応じた健幸づくり」の取組例について、学生となると、大学生という意味合いになるが、小中学生は入らないのか。 ・小学生は児童，中学・高校生は生徒になる。 ・ここでの学校というのは全てを含むということで良いか。 ・そのとおり。 ・スマートウェルネスの名称について、ウェルネスのエは大文字で良いのか。 ・表記のルールとして、慣用的に使うものについては大文字，外国語の発音を日本語表記とする場合は小文字を使用することを確認している。本プランについては、スマートウェルネスという言葉慣用的に広げていきたいという気持ちもあって大文字表記とした。 ・身体活動の増加については、歩く以外の方法で取り組んでいる人もいる。歩けない人もいる。様々な身体活動を数値的にみていくのは難しいと思うが、スポーツ関係で指標はないか ・活動時間で見たとしても運動の負荷で活動量は変わるので難しい。

[事務局]	・アプリにも身長・体重・歩幅を入れると消費カロリーは表示されるが、日常生活の歩く、走る以外の生活の活動部分を把握するのは難しい。
[D氏]	・対象を子どもから高齢者まで広く考えるのであれば、自己申告で、「できた」「できない」を把握する方法でも良いのではないか。
[進行役]	・幅広い世代を対象にしているのだから、歩けない人でもできる、参加できないからやめようとなる人を作らないようにしたほうが良い。
[D氏]	・北海道新聞の旭川版に老人クラブの方がスマホ片手に歩くイベントの記事があった。札幌では区で施設利用に関するスタンプラリーがある。旭川も地域包括支援センターの11地区で取組ができれば地域活性化になるのではないか。 ・安全で安心な健康増進環境の整備については、今の社会で煙草を吸っている人は肩身が狭い。喫煙者であっても暮らしやすいまちだと思えるような整備が必要ではないか。歩くための歩きやすい道の整備なども含めて取組の一つとしてほしい。
[A氏]	・歩く道の整備から自転車と進めたほうが良いのではないか。 ・また、アプリの活用については、地域ごとに利用しやすい、使いやすいものになると良い。企業のアプリは、商用的に捉えてしまい拒否反応があった。地元密着のアプリがあると良いと思う。
[事務局]	・開発中ではあるが、市民生活部が地域情報共有プラットフォームという地域住民向けのアプリ開発を進めている。このアプリに健幸アプリのマイレージ機能をぶら下げ、アプリの充実化を図りたいと考えている。
[進行役]	・外出することで、多少なりとも体は動かしていると思う。外に出ない方も椅子に座って体操しましたというボタンがあれば自分なりに今日は何をしたか可視化できる。健康に関するイベントも通知としてアプリで見れるのではないか。
[事務局]	・施設ごとにQRコードを作成できるので、アプリが活用できれば、今後QRコードの読み取りでポイントを付与できるようにしていきたい。
[進行役]	・誰がどこに行ったかも分かるが、個人のセキュリティには気を付けなければいけない。
[E氏]	・アプリをダウンロードする際には警戒する。アプリのセキュリティについて、しっかり伝えないとインストールするに至らないかもしれない。
[C氏]	・アプリが実現し、あさひばしをペーパーレスで発行できたりすると経費削減になるのではないか。
[事務局]	・完全に紙をやめるということにはならないと思うが、誰でもどこでも見れる、紙でもデジタルでも見れるということで見ると対象は広がると考える。
[A氏]	・市のアプリということで信頼性はあるのではないか。
[進行役]	・アプリで暮らしやすさを感じてもらえれば使う人も増えると思う。
議題(3) 意見交換	議題(3)「懇談会のまとめ」について、資料に基づき事務局から説明
[進行役]	・知る機会を増やすことが大事。無理に新しいことをしてほしいということではないと思う。
[A氏]	・スポーツフェスティバルの開催の際には広く周知をしている。また、同時にボランティアについても広く募集している。ボランティア活動は生きがいづくりになる。
[進行役]	・様々な機会が広く周知されると良い。あさひばしやライナーについても全てのイベントが載っているわけではないと思う。 ・いろいろな部署、市民団体が似たようなことをやっている。協働するなど新しい発展があっても良いし、優れた方法を共有できる場になれば良い。
[A氏]	・老人クラブや介護予防の自主グループは、広がる手段を持ち合わせていない。市が健康づくり取り組むことを強くアピールすることで、老人クラブで麻雀をやっている人達が外に出て歩くといったようなことも進めていけるのではないかと思う。
[A氏]	・地区センター、公民館、学校等集まる場所はあるがイベントはもっとあっても良い。
[進行役]	・地域で開催するノウハウを持っているところがある。ノウハウが広がれば良い。
[D氏]	・除雪隊を募集しますという案内が出ていた、アプリで除雪のマッチングができると良い。一人暮らしの高齢者の見守りにもつながっていくと良い。
[C氏]	・来年から旭川大学は市立大学となるので、市への貢献として何ができるかを考え

	<p>たが、施設の提供は協力ができそうである。中心部からは離れているが、駐車場は広い。サークル活動でのボランティアはコロナで縮小気味ではあるが、次年度ということであれば何かできるかも知れない。また、大学生協でも食堂を充実させるだけでなく組合員が幸せになれるように活動をしている。無料自転車点検も始めたが、立ち上げたばかりなので、アイデアあればぜひ教えてほしい。</p>
[B氏]	<ul style="list-style-type: none"> ・ハーフマラソンは実行委員会形式で実施している。イベントの時に走るだけでなく健康増進のために何かすることができるのではないかな。 ・保健所からスポーツ協会や市の関係部署に働きかけがあれば、スタート・ゴール地点で何か仕掛けができるかも知れない。
[進行役]	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の旭川市のイベントに上手く乗っていくというのも一つの手ではないか。 ・大学でも地域でいろいろと活動をしている。
[B氏]	<ul style="list-style-type: none"> ・ハーフマラソンの時には、旭川大学の学生がボランティアとして結構な人数で参加していた。そういった関りが今後も増えていけば良い。
[E氏]	<ul style="list-style-type: none"> ・教育大学の健康に関わる分野としては保健体育になるが、1学年11人しかいない。
[進行役]	<ul style="list-style-type: none"> ・市内には、OT（作業療法士）やPT（理学療法士）の養成校もあり、その学校のOBが患者だけでなくアスリートにも関わりたいということでスポーツイベントのボランティアとして参加してもらったことがある。
[B氏]	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントとなると主催者はどうしてもマラソンなら走ることに主眼を置くので、それ以外のことには発展していかない。
[A氏]	<ul style="list-style-type: none"> ・ハーフマラソン開催のノウハウをウォーキングイベントやカレーの材料を集めるようなカレーライスマラソンとか、誰でも参加できるものに活用してほしい。
[E氏]	<ul style="list-style-type: none"> ・食べマルシェは有名で人も集まる。そこで歩けると良いのではないかな。注目度は高いので、お店を見たくて歩く人もいると思う。バーサーと一緒に食べマルシェを開催するとか、冬にも開催できると良い。イベントは自然と歩いてしまう。
[進行役]	<ul style="list-style-type: none"> ・工夫次第で既存のイベントに付加価値をつけていく方法もある。主催者側だけだと難しいと思うのでいろいろな人が協力できる体制がつけると良い。
[B氏]	<ul style="list-style-type: none"> ・クロスカントリー用のスキーの貸出もしている。スポーツでもあるが市民の健康に貢献するという面もある。古くなった板や靴を学校からもらって無償で貸出している。
[進行役]	<ul style="list-style-type: none"> ・子供が楽しめる場所があれば親も一緒に外に出る。高齢の方も子供たちの見守りが生きがいとなる。景色を見ながら、食べながらといった、ついでに歩いてしまう仕組みが必要。また、歩けなくても自分なりの取組をしたら点数が入る仕組みがあれば、広がっていくのではないかな。
[A氏]	<ul style="list-style-type: none"> ・ここ数年はコロナで実施できていないが、世代間交流ということで、市民委員会で餅つき大会を実施している。地域のお年寄りにボランティアとして子供に指導してほしいと募集したら集まる。教える高齢者は生き生きしている。イベントがなくなれば交流も途切れるので、交流できる機会を増やして意識づけをしていくと良い。
[進行役]	<ul style="list-style-type: none"> ・活動が地域の話題となり参加者が増えると参加していない人が話題についていこうとして、自然に参加者が増える。役割も1人2人では負担が重いので、10人位で交代で担えると上手く循環し、続くようになると言われているが、そこまでの状態に持って行くことが難しい。
[D氏]	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢社会で長く働く時代になっている。町内会活動が楽しくないというイメージを持たれると若い世代のなり手もいなくなる。楽しいイメージが浸透すると若い世代のなり手が出てくるかも知れない。
[C氏]	<ul style="list-style-type: none"> ・アプリのようなデジタルで便利に円滑に進められるということと外に出て人とかわかることが両立できるように事業構築をしていく必要がある
[進行役]	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルは広く周知することに特化すべきだと思う。また、こういった懇談会に多くの市民が参加すると意識が変わると思う。
[A氏]	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな情報交換ができる媒体がアプリであれば良い。アプリの情報を見てここに行ってみようかという話題になる。